

令和2年度 第1回鳴門市スポーツ推進審議会 議事録

【日時】 令和2年8月6日(木) 14時00分～16時00分

【場所】 うずしお会館2階 第1会議室

【議題】 鳴門市スポーツ推進計画後期計画の策定について

【出席者】 ①委員11名

卯木委員／江藤委員／大岩委員／神田委員／田口委員／端村委員／藤村委員
堀江委員／松井委員／山本委員／米田委員

②鳴門市5名

泉市長／事務局4名(廣瀬市民環境部長／藤瀬スポーツ課長／小野木主幹兼副課長／岡田係長)

【傍聴者】 1名

【会議概要】

1. 市長挨拶
2. 審議会の趣旨説明
事務局から審議会の趣旨を説明
3. 委嘱状の交付
4. 審議会委員の自己紹介
5. 議事第1号会長及び副会長の選任について
委員より事務局案の声があり、会長に松井委員、副会長に大岩委員を推薦し、各委員の承認を得る。
6. 議事第2号鳴門市スポーツ推進計画後期計画策定に係る諮問について
泉市長から松井会長へ諮問
7. 議事第3号審議会の進め方について
以下3点について事務局より説明し、承認を得る。

①会議の公開

会議は原則公開とする。ただし、鳴門市情報公開条例第7条に規定する不開示情報に該当するものを取り扱う場合や、公開することにより公正で円滑な議事運営に支障がある場合で、当該附属機関において会議を非公開とすると決定した場合は、会議を非公開とすることができる。

②会議録作成における発言者名の取り扱い及び会議録の作成

会議録を作成し、各委員の確認後に鳴門市公式ウェブサイトに公開する。また、審議会における発言者名の取り扱いについて、会長及び副会長を除く全委員の発言を「A委員」「B委員」のような記号表示の形式で表記する。

③審議会のスケジュール

スポーツ推進計画後期計画策定スケジュール案を資料1委員名簿・法規等・審議会スケジュール案の14ページのとおりとする。

8. 議事第 4 号鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況について
後述のとおり
 9. 議事第 5 号鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査について
後述のとおり
 10. その他
後述のとおり
-

事務局：～議事第 4 号鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況（資料 2 鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況及び鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査 1～10 ページ）について説明～

松井会長：どうもありがとうございました。それでは、ただいま事務局から説明のありました鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況について、委員の皆さま方からのご意見をお願いいたします。報告の内容が広範囲ですので、基本目標 1、基本目標 2、基本目標 3、とありますけど、まず基本目標 1 の「子供・青少年の体育・スポーツ機会の充実」。この項目の中でご意見あるいは質問等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。では、私のほうから。小学生の体力テストの結果が全国平均よりも僅かですけど下がってしまっています。このことに関して何か原因は考えられるでしょうか。あるいはそれに対する対策等はどういうものが考えられますか。

C委員：スポーツをしている、していないというのは、もしかしたらそんなに変わっていないのかもしれませんが、学校に行くのに親御さんが送り迎えされている場合がよく見受けられます。その道中も運動だと言えるのではないのでしょうか。走ったり、荷物を持っていくとか。スポーツとは言えないかもしれないけど、運動部に入らなくても、総合型地域スポーツクラブに来なくても、日常的に動かすことが少なくないと思います。その延長線上に総合型地域スポーツクラブに行こうとか、スポーツ少年団に行こうとか考えるのではないかと思います。車での移動が多いとかいうのがあると思いますが、歩数計を持ってもらう取り組みとか、そういうのを引き続きやっていただけたらいいのではないのかなと思います。

松井会長：スポーツの場に限らず、生活の中で運動の機会は十分あるんじゃないのかなと。それに関して何かありますか。

H委員：子どもの体力についてですけども、私のところの総合型地域スポーツクラブでは、たくさん小学校にスポーツ指導に入らせていただいております。特に子どもの放課後の時間の過ごし方に注目して、できるだけスポーツを取り入れたプログラムを、多くの小学校にて導入しています。当初、入らせていただいたときに感じたことは、ドッジボールをするときに、片手でボールを持って投げれない低学年の子どもたちがたくさんいることです。今、4年5年経ってきまし

たけども、最近ではそういった子どもが少なくなってきました、片手でボールが投げれるようになって、かなり距離を飛ばせる子どもも増えてきたと思います。ただ、数字的に体力テストでは、すごく二極化が進んでいるので、スポーツしている子はかなりできるんですけども、していない子どもの記録が伸びないというのがあるので、そういうところでこの数字がきているのではないかと私は感じます。

松井会長：ありがとうございます。今のに関連してご意見等ございませんか。

F委員：子どもの放課後の運動量が少ないと思います。放課後早くから運動場はサッカーとか野球とかそのようなものに使っていますよね。しかし、クラブに入っている子は別として、入っていない子の遊び場、小さなグラウンドを作るべきではないかと思います。そうしたらいろいろなことができて、運動にも繋がりますし、友達もできいい環境ができる、そのように考えます。

松井会長：ありがとうございます。それでは小学校体育連盟からよろしく願いいたします。

E委員：新体力テストは、共通した種目で学校ごとに全国的に行われています。しかし、検定者が体育主任や学級担当等決まっていないことや、検定場所の状況、検定方法、種目の経験値の違い等により正確な数値ではないので、実施結果は参考程度にしかできないと思います。しかしながら、先ほど他の委員もおっしゃられましたが、事実として子どもたちの体力は低下してきています。また、体力の二極化も進んでいます。この課題を受けて市内各小学校では、児童の体力向上に向けて、体育科における主体的・対話的で深い学びの授業改善をしています。もちろん、各運動の知識や理解、技術の習得・向上を大切にしていますが、それ以上に児童が試行錯誤しながらできるようになるまでのプロセスを大切にしたり、達成感を味わったり友達と助け合ったりしながら主体的に学習できるように授業をしています。また、教師は生徒一人一人の実態に合った目当てを持たせ、目当てが達成できるための場の工夫をしたり、個々に応じた支援をしたりする等して、子どもたちが、楽しそう、挑戦してみたい、と思える体育学習を実践しています。さらに、休み時間の外遊びも推奨しています。このように、子どもたちが生涯を通じて、自ら進んでスポーツに関わり、親しみながら生活していけるようにと先生方は日々努力をしています。児童の放課後についてですが、大人も忙しいですが、子どもたちも塾や習い事、スポーツ少年団、地域総合型スポーツクラブ、子どもクラブ等があり忙しくしています。これらのことができるためには、送迎やお世話等において保護者の理解と支援がなければ成り立ちません。子どものスポーツの機会拡大や体力の向上には保護者の理解・協力が必要不可欠です。

松井会長：ありがとうございました。他いなかでしょうか。この基本目標1というのは、体育・スポーツ機会の充実ということで、大会や行事等も範囲になっていますけど、そちらのほうはどうでしょう。

G委員：スポーツ少年団の話が出ましたけど、私もスポーツ少年団の指導者としてずっとやってき

ています。今E委員が話したように、保護者がお手伝いできない、送迎ができないというのが大きな原因だと思います。それと共稼ぎということで、親が両方とも協力しづらいというのが大きいなと。昔は歩いてきていましたけど、今は交通事故とか不審者とかの問題がありますので、皆さん送り迎えされています。例えば、うちのチームでは、保護者の方が送って行けない場合は、私のところに電話が来るようになっていました。私も定年退職していますので、指導者も送迎のお手伝いをすることで迎えに行っています。帰りも迎えがなかったらまた送って行きます。指導者も含めてやっていかなければ、今のスポーツ少年団はどんどん減っていくと思います。特にスポーツ少年団の指導者は、資格を取ってこないといけない。競技によって違いますけど。資格がなかったら指導者になれないということで、2日泊りがけで資格を取りに行くと。これの金額が、ホテル代を入れたらすごく高くなります。今の時代、若い人はなかなかそこまでしないということで、指導者もものすごく減ってきています。私らのような50代60代70代といった、そのあたりの年代の人が監督をやっている鳴門のチームは非常に多い。他の地域には若い子もいるのだけれど、特に鳴門市の指導者は高齢化が進んでおります。さらに、スポーツ少年団が減少して競技も減ってきています。保護者もですが、指導者も考えて、みんなで1つのチームとして動いたほうがいろいろと良いと思います。これはチームによって事情は違いますけど、そうしていかなければ今の時代はダメだと思います。

松井会長：ありがとうございました。子どもの体力の問題ですけど、それは、それを支援する大人とか周りの環境も含めて考えていけないといけないという意見をいただいております。ありがとうございました。他いかがでしょうか。

B委員：スポーツ少年団と小学校の放課後の話も出てきましたけど、中学校では部活動が当然ながらありますが、本校においても運動部への加入率は60%~70%になります。社会体育でやっている子もいますけど、文化部又は無所属の子も増えつつあります。本当に熱心にする子はするし、しない子はしない。二極化は中学校でも見られます。その中で、E委員が仰ったように、中学校でも勝つためにやりますが、生涯体育を目指して「陸上って楽しいんだよ」「テニスって楽しいんだよ」ということを部活の顧問の先生も一生懸命教えているところです。その中で、どれだけスポーツに対する意識、生涯体育の意識が身につくか、というのを中学校としても模索しながらやっている状況です。ただ、確かに運動する生徒は減っています。

松井会長：ありがとうございました。5ページの個別政策3のところ、部活指導員の配置とありますが、一昨年で1名、昨年で4名というのは、多いか少ないかでいうと、私の印象では少ないのかなという印象を持ちます。これに関して、学校側の需要がないのか、あるいはあってもなり手がいないのか。そのあたりの状況はどうかでしょうか。

B委員：指導者の方が少なくなっているのは伺ってます。確かにその通りです。ここで部活動指導員として配置されている方は、ほぼご退職なさった方とか、ベテランといえればベテランの方々です、いい意味で。令和2年度に関して言うならば、この数字は増えております。大麻中は2名に増

えており、鳴門一中も卓球等増えているはず、鳴門中学校にも運動部活動指導員が配置されています。例えば大麻中学校であれば、2名ともその経験を非常に活かしていただいております、すごく助かっています。こういう制度を大いに活用していただきたいと思います。

松井会長：部活動に関しては、従来は教員が顧問として指導するというのが多かったようですが、教員の皆さんも多忙な業務でいろいろ大変だということで働き方改革等が進み、文科省が部活動指導員という仕組みを作りましたが、それを十分に活用できるように、鳴門市としても外部指導者の活用を積極的に推進していくという政策がこれからも求められるということでしょうか。

B委員：はい。

松井会長：他にないですか。

C委員：まったく別の視点からの意見となりますが、私がスポーツ好きなのは親の影響です。やっぱり、子どもにスポーツとか体を動かすことをさせようと思ったら、「やれ」と言ってもやらないので、周りの環境というか、お父さん・お母さん・おばあちゃん・おじいちゃんがかっこよくスポーツをしていたり踊っていたりしていたら、「私もやってみようかな」と思うでしょうし、それが普通かなと思います。カヤックとかサップに来られている方々は、親子で来てお母さんお父さんも一緒にやられています。子どもさんだけにさせるんじゃなくて、私たちがサップをする、したい。そういうスポーツを気軽に楽しくかっこよくやっているというのを、「鳴門に住んでいる＝スポーツをする」みたいな形で、ライフスタイルとして子どもたちに示すのが良いのではないのでしょうか。分かりやすく言えば、サーファーはサーフィンというライフスタイルで生きています。波があったら朝早起きして、海に行くと。鳴門はそれが可能な場所です。大人たちが子どもたちにマナーやルールを守ってかっこよくスポーツをしているというのを見せるのが一番の政策じゃないのかなと私は思います。

松井会長：ありがとうございました。

E委員：私は教員をする傍らスポーツ少年団で指導をしています。ですから両者の立場はよくわかります。先ほどC委員がおっしゃったように、保護者も一緒になって、という考えは大切だと思います。自チームでは、冬場に開催される保護者のサッカー大会に出場するために、保護者の方々が集まって子どもたちと一緒に練習して大会に出ています。保護者の方は、日頃は子どもの応援をしていますが、この時ばかりは選手です。練習や試合を通して、子どもの苦しさやサッカーの楽しさ等、子どもの心情が理解できます。休日に子どものサッカーの試合があるとき、今までは私的な外出をしていたお父さんも、一緒にグラウンドに来て応援や手伝いをするようになり家庭円満につながったという声も聞かれます。このように、保護者を巻き込むことも大切だと思います。また、G委員からの指導者の高齢化については、私たち指導者は保護者の方に先ほど申し上げたような

活動を通じて楽しさを経験してもらい、自主的に指導面に関わっていけるようにしていかなければならないと思います。保護者の方は、それぞれの仕事において難しいというところはありますが、地域の子どもは地域が育てるという考えを若い保護者の方に持ってもらいたいと思っています。自分たちが大きく成長できたのはたくさんの方々にお世話になったからだ、ということは今一度思い出し、恩返しをするという意識を持っていただけるよう保護者の方に対して図っていくことが私たちの責務だと考えます。自チームにおいても、指導者が固定化し若返りができていません。スポーツに親しむことで家庭内で会話が弾み、子どもと一緒にサッカーを楽しむことで子どもを育て、地域に貢献するということが、これからのスポーツ支援の道なのかなと思います。

松井会長：ありがとうございます。基本目標1についてそろそろよろしいでしょうか。結構時間を費やしてしまいましたので。時間の関係もございますので次に行きたいと思います。よろしいですか。それでは、基本目標2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進の項目の中で、ご意見あるいは質問等ございましたらよろしくお願ひします。この中には、大会誘致だとか小学校や中学校の体育施設の開放、高齢者・障がい者のスポーツの支援という内容が含まれております。

F委員：介護予防の事業に触れさせてください。サロンとか健康体操、チャレンジデー等、いろいろ助成していただいております。さらにですね、ヴォルティスの方々に来ていただいて、ヴォルティス体操とかいろいろなことをやっていただいております。体力測定も何ヵ月かに1回行う等、高齢者の健康維持増進にご支援をいただいております。今後も引き続きご支援の程よろしくお願ひいたします。講師を招くにあたりまして、色々と調整いただいておりますが都合が悪いこともありますので、そのような時は、心得がある市の方に来ていただければありがたいです。ヴォルティスの方には多くのグッズを持ってきていただき皆さんに配ってくれる等、皆非常に喜んでおります。非常に有意義な事業であると思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

松井会長：ありがとうございます。他何かありますか。

C委員：いくつかあります。まず生涯スポーツ。スポーツ施設に関してですが、ボルダリングを備えたUZUHALLが新しくできる等、UZUPARKは非常に賑わっております。ただ、私たちが使おうと思っても使えないので、コロナで大変だとは思いますが、一般利用ができますように是非UZUHALLを開放してくださいようお願ひ申し上げます。続いて、先ほど仰っていた指導者がなかなか手がない問題についてですが、NICEは昔から介護予防運動指導員養成講座等をやっていますけど、なかなか使える助成金がなかったりしています。あと、今はコロナで難しいですけど、日本規模のフィットネスの統括団体が、指導者を養成するためのワークショップを開く場所をいつも探されています。鳴門ってすごく神戸からも近いし、高松、愛媛、高知からもアクセス可能で、ワークショップをすると結構な方々が来られます。ですから、例えば競技スポーツやヨガ、うちがやっているZUMBA、エアロビクス等、いろんなスポーツの指導者のワークショップの開催についての問い合わせがあった際に、鳴門市さんがお持ちの施設を無料で、もしくは格安で使わせていただける

ようにご配慮をいただけますと、指導者も増えます。ただ、指導者資格のワークショップを受けたからと言ってもすぐに指導できません。やっぱり実践は必要ですから、総合型とかスタジオとかが受け皿になって試用期間みたいなものゝ要るだろうと思います。指導者の育成というのにも目を向けて、予算と場所を手当していただけたらなと思います。それからもう一つ、スポーツ大会、島田島ハーフマラソンやリレーマラソンされてますけど、是非にご要望したいのが、スポーツボランティアの養成です。今後、大きな大会を誘致するといったときに必ず必要になってくるのがボランティア。ボランティアを養成するのは1年や2年では無理です。地域の人たちの地域愛、そういったものがなかったらできません。ですから、鳴門を全国に知らしめるという心意気でボランティアに取り組んでくれるようなホスピタリティ溢れるボランティアの方々、特に若い方を集めたり、大会ごとに募集する等して、場数を踏んでいけば、今の状態だと市の職員さんとかにすごく負担かかっていると思います。もっと市民も参加できるボランティアの仕組みがあれば。例えばですけど、島田島ハーフマラソンに市民の人が2回参加するうち1回は必ずボランティアにしてもらおうとか。市民は、2回参加するうち1回はボランティアとして参加してもらったら大会に出場できるくらいのルールで。ヨーロッパのトライアスロンの大会等では、地元の人が選手ではなくホストとしてボランティアに回ります。そういったところもどうかスポーツ推進計画に盛り込んでいただけましたらと思います。最後に、今はコロナ禍ですので、私たちもLINEとかリモートを活用した生涯スポーツ事業への取り組みを始めています。市を挙げて取り組んでいただければ底辺が広がるのではないかと思いますので、是非お願い申し上げます。

松井会長：ありがとうございました。

D委員：C委員さんの指導者について引き続きお話させていただきます。9ページにある数値目標3のところ、スポーツ活動中の安全確保を図るための講習会は200人募集していると思いますが、34人しか参加していないですね。それと10ページ施策2のスポーツ活動における安全の確保の研修会とか講習会をもうちょっと進めていただきたいと思います。ちょっと少ないなと思ったんですね。今、指導者が少ないと言われているのに少ないと思いますし。あと、5ページの部活動指導員のどういった方が行かれているのかなと。このような安全教室、講習会を受けた方でもお手伝いできるのかなと、そういうことを考えております。いかがでしょうか。

E委員：まず一つ目の鳴門市チャレンジデーの児童参加率66.6%についてですが、市教育委員会、校長会、市体育部会、小学校体育連盟から全校挙げて参加するよう伝達しています。今後も協力していけるよう考えています。二つ目は、スポーツ大会開催に伴う助成金の増額についてです。先ほどC委員の話にもありましたが、市内スポーツ少年団主催による大会が開催されていると思います。自チームの中学部は毎年12月に県外から16チーム約250名、小学部も毎年1月に県内外から24チーム約300名の選手を集めてサッカー大会を開催しています。中学部は11回、小学部は26回開催していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。開会式で市長さんからは、大会期間中にはぜひ鳴門市を観光して、遊んだり買い物をしたりして鳴門市を満喫してくださいとお話させていただきます。今は泊を伴う2日大会に関して助成金があります

が、一層の増額をお願いします。また、1日大会においても助成金をお願いします。三つ目は、魅力あるスポーツパスに改定してもらいたいと思います。自チームの大会開催時において、参加者全員にスポーツパスを配布しています。大会後のアンケートにおいて、スポーツパスの利用についての回答内容は良くありません。理由として、魅力がない、使ってみようと思わない、割引額が少ない、レイアウトの工夫等がありました。また、宿泊施設が少ない、古い等もありました。たくさんの人からアイデアを募り、より魅力のあるスポーツパスに改定していただきたいと思います。

松井会長：ありがとうございました。今の関連でスポーツ課事務局に質問があります。大会に関して補助金を出すという制度が鳴門市にはありますか。例えば他の自治体であれば、コンベンションとかイベントがあったときに申請すれば、参加人数あるいは宿泊人数によって補助金が出るってような制度を作っているところもありますが、鳴門市はそのあたりどうなっていますか。

事務局：大会合宿についてですが、コンベンション開催助成金がございます。宿泊50泊以上については6万円、100泊以上で10万円と段階的に上がっていきます。この助成額は以前の金額から2倍になっており、このようにその枠組みを広げる取り組みも行っております。ただ、宿泊を伴わない大会に関してはそういう制度がないのですが、宿泊を伴う大会合宿についてこのコンベンション助成の制度を持っている自治体というのは、徳島県で言えば徳島市と鳴門市だけ、四国では香川県の高松市と丸亀市というふうに、各県1番目と2番目の都市くらいしかありません。鳴門市も助成金額を上げるという形をとっておりますので、そこは周知が足りないのかもしれませんが、皆さんにもご活用いただけたらと思います。あと、スポーツパスはスポーツ課ができてすぐに取り組み出した事業でございます。スポーツ大会・合宿に来た時にこのパスに載っているお土産屋さんに行けばソイジョイをもらえたり、なるちゆるうどんが150円引きになったりとか、他にも観光施設も結構割引してくれます。できる範疇ではやっているつもりですけど、「こうすればもっと魅力的になるのに」というのがあればご意見をお寄せいただけたら、来年度作るとなった時には、予算の都合もありますが、そういったご意見を極力反映していきたいなと思います。C委員さんから出たと思いますが、ワークショップをしたら指導者が増えるという話についてはすごくいい取り組みだなと思うので、ワークショップで何人か集まって50泊になれば助成金も出せるし、ボート関係の施設を使うようだったらご相談いただけたら我々も一緒に動いていけたらと思います。スポーツボランティアについては、C委員さんの思いもありますし、我々もそこは課題と考えているところでございますので、島田島ハーフマラソンは去年から高校生が260人参加し、地域に貢献をしていただいているということで良い評価もいただいております。また、聖火リレーはなくなりましたが、ボランティアを募集したところ30人しか集まらなかったというのが現状です。鳴門市としては、ボランティアを養成する取り組みというのがまだまだ足りてないという状況なので、今後は支えるスポーツというのもどれだけ市民の皆さまに意識していただけるか、そういったところの取り組みを進めていきたいなと思っております。

松井会長：ありがとうございました。児童・生徒の行うスポーツで多かったのはサッカーや野球もありますけど、陸上競技はそのあたりはどうでしょうか。子供が集まりやすい環境であるのかどう

か。

大岩副会長：20年、もっと前から鳴門市小学校陸上教室というのを開催しております。250名から300名くらい、基本的なことをきちんと教えるということで、ずっと続けております。今年度はコロナの関係で中止をしましたが、中学校に上がって違う競技やスポーツをする子にも役に立つ基本的なことを教えるということで、経験豊富な陸上競技経験者が何ブロックかに分かれて指導をしております。先ほどスポーツ指導者の活用ということで、この人やな、あの方やなどどなたがなられているか想像はつきませんが、皆我々と一緒のように教職課程を取って、専門のスポーツをいろいろと学んで尚且つ実績がある方が指導しています。大事なことは技術的なことに走らないで、体力をきちんとつけて、本当にその子の未来のこと、どうしたらこの子のためになるかということだと思います。ですから、その子の特性を教えてあげる、小学生は基本を大事するのが一番ではなからうかと思えます。つまり、きちんとした体力づくりをしてから専門の技術を身に着けるのがいいのではないかと。20何年か分かりませんが、陸上教室は毎年開催しておりました。今年は、コロナの影響で大変なシーズンになりまして、スポーツ課にもお聞きしましたし、徳島県陸上競技協会の会長もここにおいでますが、陸上の大会では観客全てに体温チェック、それから7日間異常がなかったか、今日も異常はなかったかも確認する。大会、練習試合をするのもほんとに大変ですね。そういうことも十分に気を付けるよう各競技団体をお願いをしているところです。

松井会長：陸上競技の状況について詳しく説明していただきありがとうございます。他にいかかでしょうか。そうしたら、最後の基本目標3市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備というところ。先ほどの議論でちょっとこの内容に入り込む部分もありましたけども。この項目について何かご意見あるいは質問等ありませんか。実はこのスポーツ推進審議会最大の決め手となるのが、一番最後のスポーツ施設の改修・整備の検討というところで、前の計画でもそこが一番引っかかるという、しかしながら、これは財源を伴うところなので我々が頑張っても調整が入るところもありました。今回に期待するところは大きいかなと思えますが、このことに関してご意見等ありませんか。

I 委員：今年の9月で市民会館が無くなるでしょう。それに対応する新しい体育館の計画が全然聞こえてこないですが、市としてはどういう考えなのかなど。

松井会長：課長お願いします。

事務局：市民会館が無くなった後の市民の皆さまの活動機会の場所ということで、昨年秋口に市民会館が9月に閉まると分かってから、総合型地域スポーツクラブの皆さんとか市民会館を利用される皆さんとは今後の活動について調整をさせていただきまして、満足はされていないのでしょうけど、何とか活動が継続できるような形で進んでいるとは思っています。そして、今後新しいスポーツ施設をどうするかということについて、この後に市民の皆さまのアンケート調査の結果を説明させていただく予定で、また、市議会からの要望もいただいておりますが、これは何十億

円、多かったら 50 億円という世界になってまいりますので軽々とお話していただくことではないですが、鳴門市全体の事業としては、文化会館の耐震化だとか市庁舎の建て替えとか道の駅とか、大規模事業が前に迫ってきています。その中でスポーツ施設や体育館をどうするかについて、はっきりといつまでに何をやりますと申し上げるのは、なかなか難しいなと思っています。今回のアンケート調査結果にもありますけども、ご要望の多いオーダーは何かと考えると、プールでありますとか、体育館でありますとか、そういったところの整備ってというのが市民の皆さまのお声として多いというのは分かっています。それを今後どういうふうにやっていくかということについては、もう少し時間をいただきながら考えていく必要があるのではないのかなと考えております。この審議会において、ある程度ざっくりとした形で、どういう体育館が必要かとか、そういったご意見をいただけましたら、どこまで反映できるか分かりませんが考えていけるのかなと思います。

松井会長：ありがとうございました。I 委員、よろしいでしょうか。我々はスポーツを推進する立場でいう審議していますので、このことに関して強く要望していこうと思います。他にありませんか。あと、ご報告いただいた実施状況全般についてよろしいでしょうか。

C 委員：先ほど市長がスポーツコミッション立ち上げようかなと仰って退席されましたけど、スポーツコミッションというのがあったら、先ほど E 委員が仰られた大きな大会をするときの宿泊のこととか、そういうのがそこで話し合われたり仕組化されたりしていく、非常にいい取り組みなんですね。日本ではさいたま市が先駆的に 10 年くらい前からやられていて、100% うまくいくことはなかなか難しいですけど、是非スポーツコミッションがいいものになってくれたらいいなと切に希望します。スポーツコミッションを立ち上げることによって、先ほどのスポーツ施設の問題に対する解決策についても、鳴門市が施設を作るのではなくて、もしかしたら大きなスポーツ企業さんが作ろうかなと言って下さるかもしれない。全部を鳴門市さんが負うのではなくて、市民がいろんな知恵を絞って。例えば、私はいつも松井会長とプールが欲しいと言っていますが、鳴門市民 6 万人が一人 1 万円ずつ出したら 6 億円集まります。6 億円あったらしょぼいプールですけど、何とか作ることができます。1 万円出してもらうのが大変やと思いますが、そういったことも企業さんだとかいろんな全国に散らばるスポンサーさんとか、そういったところに振り向いてもらえる魅力的な活動ができる鳴門市であるように頑張りたいと思います。

松井会長：ありがとうございました。他よろしいでしょうか。以上で鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況についての質問は終わります。最後に、議事第 5 号「鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：～議事第 5 号鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査（資料 2 鳴門市スポーツ推進計画前期計画実施状況及び鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査 11～29 ページ）についての説明～

松井会長：どうもありがとうございました。それでは、ただいま事務局から説明のありました鳴門

市民のスポーツライフに関する実態調査について、委員の皆さま方からのご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。今のご報告は、青少年を対象としたものと、成人を対象としたものがありますが、時間の関係もありますので一括して進めたいと思います。どなたでもどの項目でも構いませんので、ご意見いかがでしょうか。

F委員：意見として、温水プールが欲しいという意見をよく聞きます。この可能性ってあるのでしょうか。

C委員：実は、私鳴門市にプールがないので隣の東かがわ市の引田温水プールに行くんですけど、利用者の半分以上が鳴門市の方です。それで引田温水プールの方と4コースから6コースは鳴門市プールだと言っています。引田温水プールでは子どもの水泳スクールもされています。かなりの割合、3割4割が鳴門市のお子さんです。OKスポーツさんとかトビウオスイミングスクールさんとか行かれていますし、もちろん学校のプールで間に合う方もいらっしゃいます。高齢の方、例えばちょっと歩きにくくなってきたという方は、歩行浴をされると腰痛だとかが改善されます。1回やっただけで改善されたりもします。それから水難事故。こういったことも水と慣れ親しむことによって少しは減少するでしょう。ですから、もちろん建設費用がかなり要りますし、作ったら運用に人件費等も要ると思います。松井先生がこの辺のデータの的には詳しいと思いますが、人口何人あたりにプールがいくつ要るっていうデータがありますけど、鳴門市は明らかにゼロですから、皆さん北島町とか引田のプールに行かれています。お金がないのは分かりますけど、先ほど言いましたように一人1万円出したら6億円になるから、これはクラウドファンディングなのか、そういった市民のファンディングになるのか分からないですけど、あったらいいなとも思っています。私20年前に鳴門市に来ましたが、その頃はプールがあったんですけどね。是非にプールが欲しいです。実は、10年くらい前に水泳をやられている方が署名を集められて鳴門市さんに持って行かれたことがありましたけど、その記録が残ってないそうです。そういった陳情の経緯もありまして、作っていただけたらなと思います。

F委員：高齢者の健康維持増進にもつながりますので。

松井会長：さっき出ましたけども、司会をさせていただいている立場ですが、個人的に意見を述べたいと思います。プールの標準設置数に関しては、昭和47年の文部科学省の保健体育審議会でも人口10万人当たりプール6個作ろうと。その中にテニスコートや体育館の基準もありますけども、プールに関しては人口10万に対して6か所。ですから鳴門市はそれに達してないという状況です。全国自治体はそれを目標に整備してきましたが、それを実現できたところと未だに実現できていないところと大きく分かれます。当然鳴門は実現できていないところに入ります。それからプールは誰が作るのかということですけど、地域によっては、例えば東京とかだと各区ごとに区民プールもありますが、各都道府県では50mの室内プールを持ってないところが圧倒的に少ないです。四国では愛媛県、高知県はすでに持っています。香川県は今年作るという計画がすでに持ち上がっているようです。プールは、維持するのに水道代とエネルギー代が要りますので、水道事業を持っ

ている自治体、それからエネルギー事業を持っている自治体じゃないと作った後にペイしません。ですから、徳島県で作っても県は水道事業を持っていませんので苦しくなる。作るのはやっぱり水道事業、ごみ焼却事業を持っている自治体がやらないと他に誰がやるんだということになります。東京都は、都が水道事業とごみ処理事業を持っていますので都営プールでいけるという実態であります。以上、情報提供でした。他にありませんか。特に実施状況については全国平均と比べて割と良い結果が多かったと思います。中学生のスポーツボランティアが若干低迷しているとかいろいろ細かいところではありますが。鳴門市のスポーツ施設の整備状況に合ったデータも出てきていると思います。水泳は過去 1 年間に行ったスポーツ種目に入っていますけど市の外でやっているのですね。北島町とか板野町とか引田とか。淡路島まで足を運んでるという家庭もあります。

G委員：29 ページの新しいスポーツ施設は不要であるという理由というところで、一番多いのは勤労者体育センターや鳴門・大塚スポーツパークで十分ですと書いているんですが、競技をしている人だったらこういう回答はしないと思います。結局、勤労者体育センターは大会をする場所ではないですよ。大会をするとなったら観覧席がいるし、雨が降っても待機できる場所が要る。競技をするとなったら勤労者体育センターではできません。それと大塚スポーツパークとなったら、お金が要ります。私らスポーツ少年団は市民会館を借りたら減免してくれて無料で使えるんですよ。それを大塚スポーツパークでやったらお金が何万もかかりますよね。全面使ったら 2 万円くらいはいると思います。そういうわけで、実際に競技をやってる人が答えればこんなアンケート結果の数字は出てこないと思います。一般の人は競技の人のことを考えてくれているのかなと思います。

松井会長：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

C委員：今仰ったことと関連しますが、数字で見ると低くなった、高くなったという評価になりますけど、現場でスポーツ振興をしていたり、コンディショニングを提案しているものとして言いたいのは、スポーツ課の方であったり、鳴門市の担当課の方、観光振興課さんとか商工政策課さんとか、数字よりももう少し現場を見に来てほしいなというのはあります。数字では分からないことがいっぱいあると思います。学校の体育でもそうだと思います。何が問題かを文章に書いていたら原稿用紙何枚も書くようになりますが、百聞は一見に如かず、見に来ていただいたらどういう状況なのかというのが分かると思います。例えば、うちではヨガとか ZUMBA とかいろんなダンスの教室やっているんですけど、代替えの場所でやっています。幸いにしてキョーエイには鏡が張ってありますけど、やっぱりダンスは鏡張りのスタジオというか、鏡が張っている体育館なんかでやりたいなと思いますし、やったほうがうまくなるのは当たり前。それに、このようなコロナの状況になりますとある程度のスペースが必要になります。そういったニーズとかを今やっているところに見に来ていただき、これやったら大変やなっていうのを生で感じてもらえたらと。現場に見に来ていただきたいというのが、私やH委員、E委員のような、スポーツ少年団とか総合型地域スポーツクラブ等、各スポーツ競技をやられている方の思いだと思います。お忙しいと思いますが、定期的に足を運んで見ていただければ、そこにはこの場では出ないような意見がたくさんあって、それが結果的に 1 年後 2 年後の鳴門市のスポーツ環境のクオリティ向上につながっていくのではない

かなと私は思っています。ただ問題があるとか言うだけではなくて、こうして欲しいとかいう具体的な思いが現場なら言えます。私たちも「こんなふうになればうまくいくんですけどね」と伝えられたら、担当の方にも答えていただける部分もあると思うので、現場に是非来ていただけたらと思う次第でございます。

松井会長：ありがとうございました。他にありませんか。

D委員：18 ページのスポーツボランティアについて。大人も子どもも引きこもりがちだと思っんですけども、スポーツのお手伝いを通じてスポーツに親しみを持って、いろんな人との関わりを持つことができればいいんじゃないかと思います。一步踏み出すために、講習会を開いて大人も子どもも集まって、自信を持たせるというのが大事だと思います。全く知らない場所で知らないことをするっていうのはなかなか参加しづらいですから、できるだけ講習会を開いて、学校単位でも地域単位でもいいから集まって。みんなの役に立ってるっていうことを大人にも子どもにも教えていただけたらと思いますけど。

松井会長：ありがとうございました。他いかがでしょうか。

B委員：今、D委員さんが仰られたスポーツボランティアでありますけど、特に中学生が全国より低いということで。今年度するはずだったオリンピックは来年度に延期ということになりましたが、オリンピックでのスポーツボランティアなんかをマスコミで報道してくれれば興味を持ってくれるのではないかなと思います。部活動をしている子もいるので、なかなか数的に増やすことはできないですけど、広報活動っていうのは中学校もできますので、そういう機会を作っていただけたらありがたい。各中学校で生徒に伝えることもできます。それと、C委員さんからお話があった施設の問題ですけど、やはり中学校体育連盟としてもいろんな新人大会や総体やいろんな会場を押さえるのに一苦労しています。結局、大塚スポーツパークは県の施設であって、全県的に使うようになります。鳴門市独自の大会をするときには、非常に苦労しています。徳島県全体を見ても箱物とか競技場とか圧倒的に他県に比べて少ないので、どの競技も苦労されていると思いますけど、ここに書いている通り「新たに整備するのは財政的に負担が大きすぎる」この一言に尽きると思います。しかし、現実には絶対的に数が不足していると思います。以上です。

松井会長：ありがとうございます。他、皆さんの立場からスポーツ振興に関してご意見ございませんか。

H委員：先ほどから、スポーツボランティアに関して皆さんのご意見があったかと思いますが、私のほうの総合型地域スポーツクラブでもたくさんの事業の中でスポーツボランティアをお願いすることがあります。大学との連携ですけど、現在、鳴門教育大学の学生さんといろんなスポーツの連携っていうのがなかなかできてなくて。四国大学とかは、学生ボランティアを地域で活躍させたいということで、いろいろと動いてもらったり連絡いただくことがあります。私のところは高

島に事務所がありますけど、個人的に知っている鳴門教育大学の学生に声をかけて来てもらうことはありますが、スポーツの何かイベントをするときに来てくださいというのを、どこに持って行ったらどういうふうに学生が集まるのが全然見えてこなくて。そういうところについて鳴門市のほうで鳴門教育大学との連携が図れると、もっと大学の学生さんと地域が密着できて、スポーツの分野で活躍していただけるのではないかなというふうに思います。あと、スポーツ施設に関してなんですけど、私も小学校とか中学校の体育館を活用させていただいております。地域の方が集まってくるには、その地域の小学校とか中学校は大変良い拠点になるのですごく助かっていますけど、老朽化が進んでいる体育館が結構あるので、そこだけに頼ってしまうとこれからの生涯スポーツは難しいと思います。是非とも、いろんな市民の方が集えるスポーツ施設を鳴門市で検討していただきたいと思います。

松井会長：ありがとうございました。

大岩副会長：H委員が言われて気がつきましたが、陸上教室は鳴門教育大学の陸上部の方に何十年前前からボランティアとしてお世話になっております。すみません、先ほど申し忘れていました。それと、私も陸上競技の指導を40年余ってやっておりますが、やはり“国立”っていうのがつかない宿泊施設を利用すると料金が高いですね。例えば熊本の大観峰なんかに行くのに、いくら安くしていただいても1泊3食で6000円くらい。しかし、愛媛県大洲市の国立施設なんかに行けば本当に安価で、3食付いて2000円未満で強化合宿ができます。一方で、鳴門はスポーツ合宿なんかを誘致するのには良いところですが、宿泊するところが少ない。それは本当に問題だと思います。もうちょっと僕が若かったら宿泊施設作ったろかなと思うくらい。全国の指導者から鳴門は良い場所だと好評をいただきますが、とにかく泊るところがあまりない。これがネックだと思います。

A委員：今の話に続いて宿泊の件についてですが、ご存じの通り2022年全国高校総体の陸上がここで開催されます。また、全国中学大会だとか、あるいは全国実業団等々いろいろな大会誘致に取り組んできましたが、本当に宿舎が乏しいというのが徳島県の実態です。例えば、全国大会をやる場合には、選手はせめて徳島市と鳴門市で泊まろうと。そして、その他の方の宿泊は、たとえ保護者であっても香川や淡路島、果ては大阪や神戸も含めて、そういう範囲で宿泊場所を想定しないと全国大会が開催出来ないというのが現状です。企業が投資してそういう施設を作ってくれなかったらこれはどうしようもないところですが、現実はその通りです。続いて、ボランティアについてですが、2022年の高校総体に向けて、特に渦潮高校が力を入れて下さっていたり機運も高まっていますけども、我々が戒めないといけないことが、私もその時代に引っかかっているかもしれませんが、古い時代の人間にとってのボランティアの解釈について、例えばボランティアだったらタダで使えるとか、そういった発想を変えていかなければいけない。今はボランティアを受け入れる側の立場の者にそういう指導もしています。具体的に例を挙げれば、ボランティアスタッフに指示をするのに命令口調ではダメです。高校生のボランティアスタッフに一番に目を向けてください。雨が降ってきたら一番にボランティアに合羽をやり、暑かったら先にボランティアに帽子を被せてあげてください。業務が始まる時には「今日は君たちに力を借ります、ありがとうございます、よ

ろしく」って声を掛け、終わったら「君たちのおかげで立派な大会が出来ました、またよろしくお願ひします」と伝えます。最近はちゃんとできるようになってきました。昔は「走れ、何しよんな、黙っとれ」と本当にとでもでないけど今ならパウハラになります。そういう時代が最近までありました。絶えず組織を若い人に入れ替えるっていうのは大事なことであって、固定化してしまうとそれがずっと当たり前になってしまいます。私の協会もだいぶそういう理解ができてきて、ボランティアスタッフも審判の職員も喜びをもって「ありがとう」と、そう言われたら気持ちよく帰れる、そこは基本だと思います。それともうひとつ、海部川フルマラソンという大会が海陽町であります。これが、民間のリサーチ会社で調べたら全国のマラソンで常に一番の人気です。実行委員会に参加していますが、今年は2月の最後の日曜日の開催でしたが、あちこちでコロナが爆発する1週間前に滑り込みで開催できました。それで来年は無理だろうなど実行委員会に行ったところ「オンラインマラソンでやります」と。私も現物を見たことがないのですが、腰にGPSを付けてどこでも、自分の家の周りでも川の縁でもいいので42.195kmを、例えば何月何日から何月何日までの間に走る。そうして十分走ればピッと記録が出るらしいです。もちろん記録の集計とかはイベント会社がやるので、実行委員会にも入ってもらって。順位はつけない。なんでそんなことをするかといたら、海部川マラソンはいつも人気度が一番ですから、参加者には固定のファンが非常に多い。だから中止は非常に忍びないのでどうにか開催を、ということで中止も延期もなく、看板を掲げて継続してオンラインを使ってやろうと。参加料を8000円くらい取っていたのを今年は5000円に下げて開催しようということで決定をいたしました。なんで海部川マラソンがこんなに人気があるのかなと言ったら、あそこは保育所の子どもからじいちゃん、ばあちゃん、お父さん全部が一人一役です。マラソンしているときには家に人は誰もいない。それでゴールしたらずっしりとした伊勢エビとかものすごい豪華な食事が出るわけですね。町民のおもてなし、人情溢れる大会ということで人気度が高いんです。さらに、今度また徳島マラソンの実行委員会に行ったらそういうことを挙げようと思いますが、海部川マラソンはおみやげ物も豪華です、まるでふるさと納税の返礼品のようです。海陽町はいいものを出すのだけれど、徳島マラソンはTシャツとタオルだけだったかなと。なにせ海陽町のマラソンは人気が高く、今回はこういう方法でやるというのを先週聞きましたので、成功したらいいなと思っているところです。

松井会長：ありがとうございます。競技団体が行う競技中心の大会とは違って、地方の大会にはそういう工夫の余地があって、もしかしたら今ご紹介いただいた方法が、鳴門の特徴あるスポーツイベントで有効なサンプルになるのではないかと感じました。ありがとうございます。他ありませんか、何でも結構ですので。そろそろ予定の2時間ちょうど来ています。いかがでしょうか。よろしいですか。ないようですので以上で、本日の議事はすべて終了といたします。委員の皆さまにおかれましては、長時間にわたる審議へのご協力誠にありがとうございました。

それでは、事務局に進行をお返しします。

事務局：長時間にわたるご審議どうもありがとうございました。非常に参考になるご意見をいただけたと感じております。こういう会を行政がやりますと、なかなか意見が出ないといったこともありますが、非常に活発にご意見をいただけたおかげで、今後どう組み上げていこうかというところ

も少し見えてきたように感じております。それでは、事務局より 2 点ほどご案内させていただきます。まず 1 点目、先にご説明させていただいた今後のスケジュールについてですが、次回の第 2 回審議会については、9 月頃に開催させていただきたいと思っております。各委員の皆さまには、事務局より日程調整のご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。続いて 2 点目、会議録の作成についてです。会議録（案）を作成しましたら、各委員の皆さまに後日送付させていただきますので、内容についてご確認いただき、修正等がございましたら事務局までご連絡ください。ご連絡がない場合は、修正等がないものとさせていただきますのでご了承ください。正式な会議録としましては、各委員の皆さまにご確認いただいた後に、市ウェブサイトへ掲載し、公表することといたします。また、その他、本日の審議会終了後に何かご意見・ご質問等がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。事務局からのご案内は以上です。会長をはじめ、委員の皆さまには、長時間にわたり熱心なご審議を賜り、誠にありがとうございました。以上をもちまして第 1 回鳴門市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。